

## 教育プログラムの概要及び採択理由

機 関 名	早稲田大学	申請分野(系)	人社系
教育プログラムの名称	アジア研究と地域文化学		
主たる研究科・専攻名	文学研究科人文科学専攻アジア地域文化学コース		
(他の大学と共同申請する場合の大学名、研究科専攻名)			
取組実施担当者	(代表者) 大橋 一章		

### [教育プログラムの概要]

#### 〈背景〉

本学では創立125周年を迎え、建学理念を現代的に刷新して“アジア太平洋地域における知の共創”をスローガンに掲げている。2002年度に採択された本学21世紀COEプログラム（以下、前COEと略称）の拠点“アジア地域文化エンハンシング研究センター”と“現代アジア学の創生”を中核として“アジア研究機構”が設立され、アジア研究に関する総合的な研究組織が成立した。また前COEの教育部門の成果として、大学院文学研究科人文科学専攻博士後期課程に“アジア地域文化学コース”が新設され、アジアの文化を地域性の視座から教育研究する学際的な教育プログラムがスタートした。本プログラムではこれを基盤としつつも、さらに新たな制度改革を行って、第一線の若手研究者、およびアジア文化にかかわる優れた職業人を輩出することを目指す。

#### 〈制度改革〉

- ① 社会の幅広いニーズに合わせて博士後期課程に直結しない修士課程を新設し（以下、Aコース）、アジア文化に対する深い教養をもつ人材を育成する。
- ② 博士後期課程“アジア地域文化学コース”（以下、Bコース）に進学してくる学生は、すでに各専攻やコースの修士課程で専門の研究スキルを錬成していることを前提とするが、従来のタコソボ型研究指導を廃するため、Bコースでは集団指導体制の教育プログラムを構築する。
- ③ この改革を実施するため、Bコースの研究指導を二つに分け、一つは担当教員5名による共同の博士論文の指導で、一つはアジア地域文化学を視座とする五つの特論ゼミで、それぞれゼミ主任・取組実施担当者・外国人客員教員・助教を配置して一体となって集団指導する。
- ④ 学生に対する指導過程を個々の「点検評価カード」に記録し、それを「学生指導データベース」としてデータベース化し、指導要件の達成度を評定することで同時にそれを教員の自己評価とする。
- ⑤ このような集団指導体制を本研究科で推進すると共に、現在交流協定している大学院（慶應義塾大学、学習院大学、中央大学、学習院女子大学の各大学院関係研究科）との間で共有化することを提案・模索し、評価体制の共有化を進めることで、大学院教育パフォーマンスを相対化・客観化し、ひいては日本全体における大学院自己評価制度の効率向上を図る。

#### 〈留学・学術交流プログラム〉

前COEプログラムで構築した海外の教育研究機関との連携を基盤として、これをさらに東アジアレベルで積極的に推進し、多様な形態の留学・学術交流プログラムを実施する。①本学が平成19年度に導入する“早稲田大学アジア特別奨学金”を活用し、中国の北京大学・復旦大学、韓国のソウル大学・高麗大学・延世大学等からの学生を受け入れ、三年在学中に博士論文を完成させる。②本学が推進している“ダブルディグリープログラム”に従って、これを台湾大学、韓国の高麗大学校文科大学・成均館大学東アジア学院等と連携して実施する。③中国政府が2007～2011年度に実施予定の“国家建設高水平大学公派研究生項目”による留学生を受け入れる。

履修プロセスの概念図 (履修指導及び研究指導のプロセスについて全体像と特徴がわかるように図示してください。)

アジア文化に対する深い  
教養をもって社会進出

アジア研究の最前線に立つ  
“現場に強い研究者” 育成

修士学位の取得

課程博士学位の取得

Aコース (修士課程)

Bコース (博士後期課程)

≪アジア地域文化学コース≫

研究(1)～(5)  
§ アジアの芸術・文化・歴史の魅力を探究

演習(1)～(5)  
§ アジア文明の諸相を究明

研究指導(1)～(5)  
§ 修士論文作成指導

研究指導①共同指導  
§ アジア地域文化コース専任教員5名が参加し、学生の研究報告をめぐる相互討論、博士論文作成指導

研究指導②特論ゼミ  
主任  
改革サポート教員  
外国人客員教員  
助教

I 漢化の構造と諸民族	II 地域からの発想	III 信仰の形態	IV 生産の基盤	V 理論モデルの構築
----------------	---------------	--------------	-------------	---------------

留学・学術交流プログラム  
①早稲田大学アジア特別奨学金  
②ダブルディグリープログラム  
③国家建設高水平大学公派研究生項目

フィールドワーク

外国語論文作成指導

社会人  
外国人学生

早稲田大学文学部・文化構想学部  
他大学学部学生

早稲田大学大学院文学研究科人文科学専攻  
アジア学関連コース (修士課程学生)  
§ 研究スキルの練成を前提

他大学大学院  
(修士課程学生)

<採択理由>

大学院教育の実質化の面では、大学のリーダーシップの下での、改革の枠組みが明示されており、実現への期待が持たれる。従来のアジア研究に対する着実な成果を踏まえており、東アジア、特に中国、韓国の各大学との交流を踏まえた意欲的改革の試みとして評価できる。

教育プログラムについては、特に学生に対する指導過程を個々の「点検評価カード」により記録し、「学生指導データベース」化し、プロセス管理と教員の自己評価に活用するとともに、交流協定している他大学の大学院との間で共有することにより、大学院自己評価制度の充実を目指している点は高く評価できる。また、修士課程の新設、ダブルディグリーの構想、博士後期課程の集団指導体制の構築などが提案されており、今後の成果が期待できる。ただし、ダブルディグリーについては、現実の適用に当たって解決すべき課題もあると思われるため、より円滑な実現化のための検討が望まれる。